

女で喫煙群の有症率が非喫煙群の有症率より低率であった。花粉症状の有症率は対象数の少ない宮崎の女を除き、喫煙群と非喫煙群の有症率はほぼ同等であり有意な差は見られなかった。

地域別にみると、男では粘膜刺激症状の有症率はほぼ同等であり差はみられないが、花粉症状の有症率は東大阪のほうが宮崎より高率であった。女では粘膜刺激症状は宮崎、花粉症状は東大阪で僅かに高率であった。なお、女については対象数が少ないことを考慮する必要があるともものとする。(表4)

表4 地区・性・喫煙習慣別花粉症状及び粘膜刺激症状

性	喫煙習慣	東大阪			宮崎		
		対象数	粘膜症状	花粉症状	対象数	粘膜症状	花粉症状
男	喫煙	471	82(17.4)	156(33.2)	345	73(21.2)	80(23.2)
	過去喫煙	103	31(30.1)	27(26.2)	66	17(25.8)	16(24.2)
	非喫煙	384	126(32.8)	124(32.3)	163	50(30.7)	36(22.0)
	計	958	239(24.9)	307(32.0)	574	140(24.4)	132(22.9)
女	喫煙	18	8(44.5)	4(22.2)	6	1(16.7)	1(16.7)
	過去喫煙	9	2(22.2)	3(33.3)	1	0(—)	1(100.0)
	非喫煙	149	43(28.9)	34(22.8)	99	36(36.4)	21(21.2)
	計	176	53(30.1)	41(23.3)	106	37(34.9)	23(21.9)
計	喫煙	489	90(18.4)	160(32.7)	351	74(21.1)	81(23.1)
	過去喫煙	112	33(29.4)	30(26.8)	67	17(25.3)	17(25.4)
	非喫煙	533	169(31.7)	154(28.9)	262	86(32.8)	57(21.8)
	計	1134	292(25.7)	348(30.7)	680	177(26.0)	155(22.8)

()内：%

花粉症状：花粉症状に該当する症状があり、治療又は薬剤を使用したことのあるもの。

粘膜症状：花粉症状に該当する症状があるが、治療又は薬剤を使用したことのないもの。

4) 非特異的 IgE、スギ特異的 IgE 抗体の陽性率

非特異的 IgE 抗体値が 200 IU/ml 以上を陽性、スギ特異的 IgE 抗体はスコア 2 以上を陽性として地区別にその陽性率を比較した(表5)。

非特異的 IgE 抗体陽性率は東大阪で 20.1%、宮崎で 22.9%と宮崎の方が僅かに高率であり、また男女別に比較すると、東大阪では男の陽性率は女の 1.2 倍、宮崎では 1.4 倍といずれの地区でも男のほうが高率であったが有意な差はなかった。

年齢別にみると、両地区とも全般的にみて高齢者ほど高い値を示すものが多いが、年齢による影響は明らかでなかった。

スギ特異的 IgE 抗体陽性率は東大阪で 36.5%、宮崎で 37.8%であり、両地区間に著明な差はみられなかった。男女比をみると、東大阪では 0.9、宮崎では 1.03 となり、両地区とも男女間に差がみられなかった。

年齢別にみると、両地区とも高齢者ほど低率であり、非特異的 IgE 抗体陽性率と異なった傾向を示した。

喫煙習慣別にみると、非特異的 IgE 抗体陽性率は両地区とも喫煙群で最も高率であり、非喫煙群で最も低率であった。

表5 非特異的 IgE・スギ特異的 IgE 抗体陽性率

性	年 齢	東大阪			宮 崎		
		受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性	受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性
男	39 歳以下	226	41 (18.1)	105 (46.5)	58	14 (24.1)	24 (41.4)
	40～44 歳	212	44 (20.8)	78 (36.8)	139	25 (18.0)	55 (39.6)
	45～49 歳	239	47 (19.7)	80 (33.5)	260	71 (27.3)	99 (38.1)
	50～54 歳	175	41 (23.4)	57 (32.6)	91	23 (25.3)	34 (37.4)
	55 歳以上	106	25 (23.6)	23 (21.7)	26	5 (19.2)	5 (19.2)
	計	958	198 (20.7)	343 (35.8)	574	138 (24.0)	217 (37.8)
女	39 歳以下	34	8 (23.5)	18 (52.9)	26	5 (19.2)	10 (38.5)
	40～44 歳	33	6 (18.2)	17 (51.5)	28	6 (21.4)	13 (46.4)
	45～49 歳	58	9 (15.5)	23 (39.7)	21	1 (4.8)	9 (42.9)
	50～54 歳	35	4 (11.4)	7 (20.0)	14	4 (28.6)	5 (35.7)
	55 歳以上	16	3 (18.8)	6 (37.5)	17	2 (11.8)	3 (17.6)
	計	176	30 (17.0)	71 (40.3)	106	18 (17.0)	40 (37.7)
計	39 歳以下	260	49 (18.8)	123 (47.3)	84	19 (22.6)	34 (40.5)
	40～44 歳	245	50 (20.4)	95 (38.8)	167	31 (18.6)	68 (40.7)
	45～49 歳	297	56 (18.9)	103 (34.7)	281	72 (25.6)	108 (38.4)
	50～54 歳	210	45 (21.4)	64 (30.5)	105	27 (25.7)	39 (37.1)
	55 歳以上	122	28 (23.0)	29 (23.8)	43	7 (16.3)	8 (18.6)
	計	1134	228 (20.1)	414 (36.5)	680	156 (22.9)	257 (37.8)

()内: %

非特異的 IgE 抗体陽性: 200 IU/ml 以上

スギ特異的 IgE 抗体陽性: スコア 2 以上

スギ特異的 IgE 抗体陽性率は両地区とも喫煙群で最も低率であり、非喫煙群で最も高率であった。このことは直接喫煙がスギ花粉による感作を助長する因子でないことを示唆するものである。なお、喫煙習慣別にみた非特異的 IgE 抗体陽性率の結果は従来の知見と一致するものであった（表 6）。

表 6 地区・性・喫煙習慣別非特異的・スギ特異的 IgE 抗体陽性率

性	喫煙習慣	東大阪			宮 崎		
		受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性	受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性
男	喫 煙	471	117(24.8)	134(28.5)	345	95(27.5)	123(35.6)
	過去喫煙	103	23(22.3)	35(34.0)	66	17(25.8)	25(37.8)
	非喫煙	384	58(15.1)	174(45.3)	163	26(16.0)	69(42.3)
	計	958	198(20.7)	343(35.8)	574	138(24.0)	217(37.8)
女	喫 煙	18	7(38.9)	12(66.6)	6	1(16.7)	2(33.3)
	過去喫煙	9	0(---)	4(44.4)	1	0(---)	0(---)
	非喫煙	149	23(15.4)	55(36.9)	99	17(17.2)	38(38.4)
	計	176	30(17.0)	71(40.3)	106	18(17.0)	40(37.7)
計	喫 煙	489	124(25.4)	146(29.9)	351	96(27.4)	125(35.6)
	過去喫煙	112	23(20.5)	39(34.8)	67	17(25.4)	25(37.3)
	非喫煙	533	81(15.2)	229(43.0)	262	43(16.4)	107(40.8)
	計	1134	228(20.1)	414(36.5)	680	156(22.9)	257(37.8)

() 内：%

非特異的 IgE 抗体陽性：200 IU/ml 以上

スギ特異的 IgE 抗体陽性：スコア 2 以上